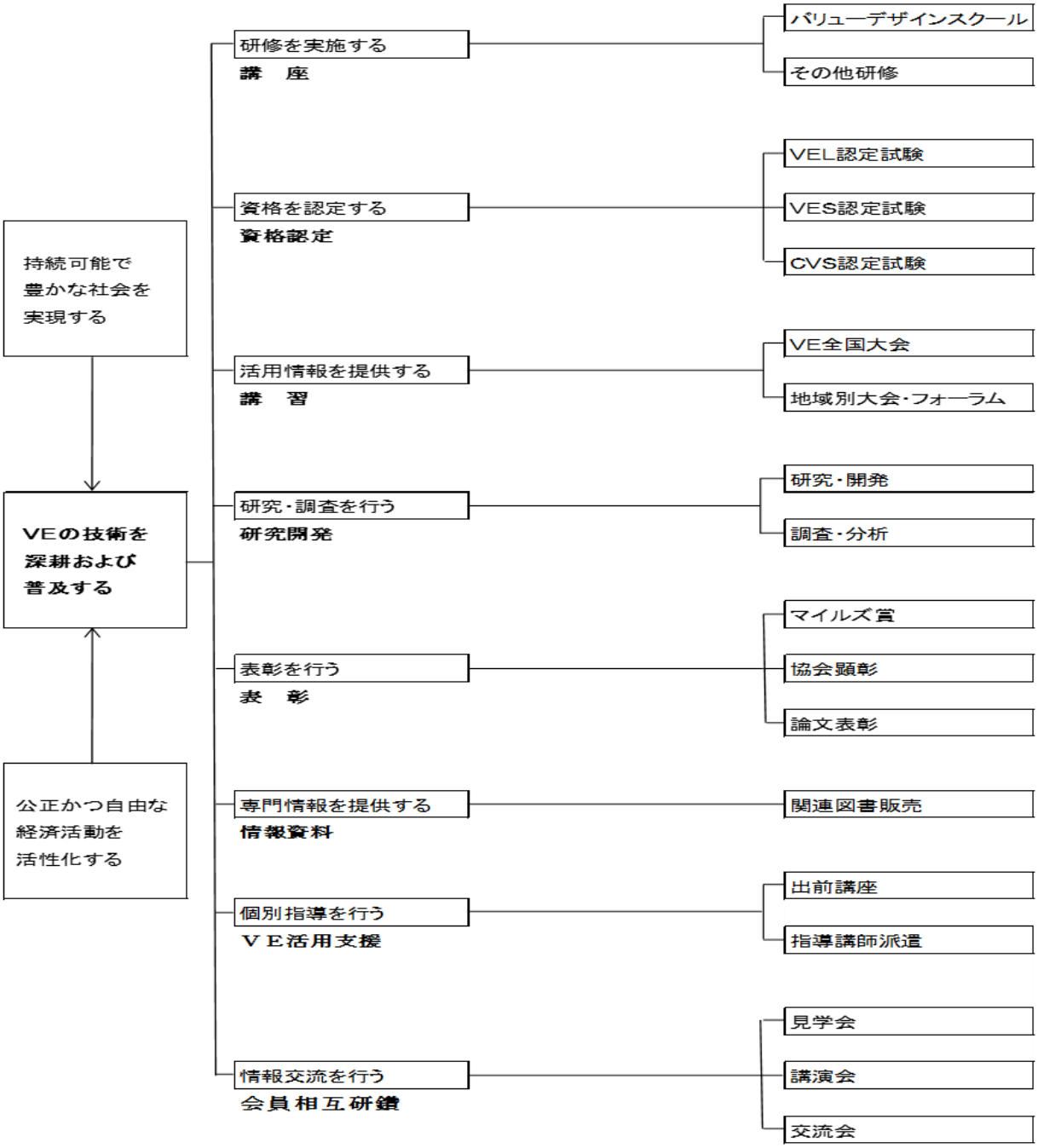
公益社団法人日本バリュー･エンジニアリング協会

2023年度　事 業 計 画 書

（ 2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで ）

2023年度も引き続き､⑴ 持続可能で豊かな社会の実現､⑵ 公正かつ自由な経済活動の活性化、⑶ ＶＥ技術の深耕・普及等を目的に、次の各事業を積極的に展開して参ります。



1. 講　座

ここでは、次世代のＶＥリーダー育成を目的に、基礎知識の講義と活用手順の演習をあらゆる業種・職種の人や学生を対象に行う講座や、実務での活用・実践力を備えたＶＥ専門家の育成を目的に、開発設計ＶＥ等の講義・演習をＶＥリーダー（ＶＥＬ）有資格者又は上記講座と同等の内容を学んだ人を対象に行う講座等で構成する「バリューデザインスクール」、ＶＥの実践を担える人材の育成を目的に、ＶＥの概要をまず知りたいという人やＶＥの導入・実践を考えている人に対してその人達が職場で実際に抱えている問題や課題でＶＥのワークショップを行う「ＶＥ塾」等を開催する。

※ 以下講座の講師は、ＣＶＳ（Certified Value Specialist）又はＶＥスペシャリスト（ＶＥＳ）の有資格者に委嘱することを原則とする。

1）バリューデザインスクールのオンライン開催

ＶＥＬ・ＶＥＳ及びＣＶＳ認定試験の受験資格要件も満たせる講座や、ＶＥＳ及びＣＶＳ更新要件上のポイントにもなる講座等として、次の講座をオンラインで開催する。

講座名	開催日
3時間で学ぶＶＥの基本	5月24日、 9月15日
1日で体験するＶＥワークショップ	5月31日、 9月20日
製品改善ワークショップ	7月 3日～ 4日、10月30日～31日
ＶＥリーダー受験対策1日セミナー	7月26日、11月16日
実行力を高める調達・購買①調達・購買機能の役割とスキル	6月 9日
実行力を高める調達・購買②調達・購買活動の要諦と組織能力	6月16日
機能の整理法	6月21日
ファシリテーション入門	6月29日
ＶＥの原点的思考（機能分析中心）	7月13日
企画段階のＶＥ	7月21日
参加者から情報を導き出す質問とフレームワーク	7月25日
ＶＥ活動で求められるファシリテーションの実践	8月24日・ 9月 5日・ 9月14日
ＶＥで活用するアイデア発想	8月28日
開発設計のＶＥ	9月25日～26日
ＶＥに活かす“数字力”養成	9月28日
ＶＥを組織的に適用するためのマネジメント	10月 3日
ＶＥブラッシュアップ①基本編	10月 6日
話し合いをデザインする技術 ~ﾌｧｼﾘﾃｰｼｮﾝのｺｱｽｷﾙ	10月17日
ＶＥブラッシュアップ②短文記述編	10月20日
ＶＥブラッシュアップ③論述編	10月27日

2) その他研修会等の開催

⑴ 通信講座の開講

① ＶＥの基礎

地理的・時間的な都合等で通学講座の受講が難しい人にも、ＶＥの基礎を学び、ＶＥＬ資格認定試験の受験資格を得られる機会を設ける。

② はじめての企画・開発メソッド　～ 0 Look ／ 1st Look ＶＥ ～

ＶＥの基礎を学んだ人、ＶＥＬ有資格者等を対象に、企画・開発業務にＶＥを活用する方法を学んでいただく講座を開講する。修了者にはバリュー・デザイナー3級の修了認定証を発行する。

⑵ ＣＶＳによるＶＥ技術者育成支援

日本国内のＣＶＳ有資格者で構成されている「ＣＶＳフォーラム」において、ＶＥ技術者の育成を支援するための活動やＶＥに関する実務的研究及び調査・分析を行う。

⑶ 経営者フォーラムの開催

経営者層にＶＥ及びその関連領域の情報を提供し、自組織でのＶＥ活用を促進してもらえるようにするため、企業の経営者及び経営幹部や学識経験者、コンサルタント等の講演を主な内容とする講演会を、ＶＥＳ及びＣＶＳ更新要件上のポイントとなるものとして理事会と同じ日に３回開催する。

⑷ 開発設計業務でのＶＥ・原価企画等に関する講座のオンデマンド配信

ＶＥＳ及びＣＶＳ更新要件上のポイントとなる講座として、主に開発設計業務でのＶＥ・原価企画等に関する次の6講座をオンデマンド配信する。

講座名	配信期間
開発設計業務でのコストエンジニアリング	5月　8日～26日
企画・構想段階の機能と品質の決め方	6月　5日～23日
企画から生産までの原価企画実務上の留意点	7月10日～28日
コストテーブル作成・活用の体験	9月　4日～22日
ＤＦＡ（Design For Assembly）体験	10月10日～27日
Modular Design実践手順と活用ツールの体験	10月10日～27日

⑸ 公共機関でのＶＥ技術者育成支援

行政機関等で構成されている「全国ＶＥ活動推進研究会」を支援すること等で、公共機関でのＶＥ技術者育成を支援する。

※ 上記のほか、様々な講座を必要に応じて適宜開催する。

2. 資格認定

ここでは、企業・団体等の組織でＶＥ活動のリーダーを務めるために必要な基礎知識を習得していると認められた人に授与される「ＶＥＬ」資格、責任者・担当者としてＶＥ活動の実施・推進の任に就くＶＥ専門家として備えるべき諸知識や技術を習得していると認められた人に授与される「ＶＥＳ」資格、ＶＥに関する知識・技能・経験が極めて高い水準に達していると認められた人に授与される「ＣＶＳ」資格の認定を行う。

1）資格認定制度の整備・体系化

⑴ 米国ＶＥ協会から“改定後のＣＶＳ資格認定制度運用”に関する情報を収集し、追加対応が必要な場合は、その方法を検討する。

⑵ 日本におけるＣＶＳ資格の主旨や位置づけについて、米国をはじめ各国の動向に鑑み、2024年度から国際資格に相応しい制度運営をするための検討・準備を行う。

⑶ 前記の制度改定によってＣＶＳを国際資格と明確に位置づけるにあたり、希望するＣＶＳに日本国内の上位資格であるＶＥＳの終身登録を行う。

2）資格認定試験の実施

第52回 ＶＥＬ認定試験（前期）	4月18日 ～ 7月31日【ＣＢＴ方式】
第53回 ＶＥＬ認定試験（後期）	9月 1日 ～ 2月29日【 〃 】
第26回 ＶＥＳ認定試験	12月 2日
第44回 ＣＶＳ認定試験	11月18日

3）「ＶＥインストラクター」資格の創設準備

ＶＥＬ有資格者を対象に、ＶＥ基礎研修の講師を務めるために必要な知識及びスキルを修得し、自信を持って教育指導ができる人材であることを認定する「ＶＥインストラクター」資格を創設する検討・準備を進める。

4）ＶＥＬ有資格者の継続教育

ＶＥＬ有資格者のスキルアップに役立つ内容のセミナーを、必要に応じて随時開催する。

5）「バリュー・エンジニアリング」誌の編集・発行

ＶＥＬ（Ａ登録者）並びにＶＥＳ及びＣＶＳ（終身登録者を除く）有資格者のＶＥ技術水準の維持・向上を主目的に、ＶＥ活動事例やＶＥに関する研究成果等を収載した「バリュー・エンジニアリング」誌を編集し、電子版として年4回発行する。

6）更新登録の実施

ＶＥＬ、ＶＥＳ、ＣＶＳ登録者の更新登録（ＶＥＬ、ＶＥＳは終身登録を含む）を行う。

3. 講　習

ここでは、ＶＥ活動推進の参考になるノウハウやヒント、さまざまな関連情報の提供を目的に、ＶＥに興味がある人やＶＥＬ等の有資格者、学生等を対象とした「ＶＥ全国大会」、ＶＥ関西大会等の「地域ＶＥ大会」、「ＶＥフォーラム」を開催する。これらの大会及びフォーラムは、必要に応じてオンラインで開催することも検討する。

1)「第56回ＶＥ全国大会」の開催

会　期	11月上旬～11月下旬を予定
会　場	未定(対面とオンラインのハイブリッド型での開催を検討中)

2) 地域ＶＥ大会の開催（西日本支部 関西地区、中四国・九州地区）

大会名	開催日	開催地
第55回 ＶＥ関西大会	2月	会場とオンラインの同時開催
第66回 ＶＥ西日本大会	9月	オンライン開催

3) ＶＥフォーラムのオンライン開催（西日本支部 関西地区）

	開催日
ＶＥスプリングフォーラム	5月
ＶＥサマーフォーラム	8月

4. 研究開発

ここでは、ＳＤＧｓに貢献する手法の構築を目的に、学識経験者及び企業人がＶＥと不便益を組み合わせた手法の活用に関して研究する等の「開発研究会」、実務で展開するためにＶＥの導入や水平展開を模索している人がＶＥ推進や実践上の課題等について研究を行うＶＥ推進部会等の「機能別部会」、2 時間ＶＥ手法のさらなる洗練化や活用局面拡大等を目的に、ゼネコンや設計コンサルタントなど建設関連分野のＶＥ入門者や推進実務担当者が具体的なテーマでの演習等を通じて同手法についての研究等を行う中部建設ＶＥ研究会等の「専門研究会」を設置する。

1)「バリューデザイン・ラボ」での先端的・実務的研究及び調査等の積極推進

⑴ “現場の生産性向上と技能者のやりがいの両立化を目指すシステムの研究”を行う研究会を設置。ＳＤＧｓのゴール８「すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用及びディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する」にある“働きがい”を達成するために活用できる管理技術手法の構築を目指す。

⑵ 米国ＶＥ協会が主催するＶＥ国際大会（オンライン）及びインドＶＥ協会が主催するINVESTＶＥ大会（開催方法は未定）に参加し、米国など海外諸国の研究動向についての情報を収集する。

2）各支部での実務的研究の推進

⑴ 機能別部会での研究活動

東日本支部に７つの機能別部会を設置してＶＥに関する実務的な研究を進め、その成果を報告会又はレポート（ＶＥ資料）等で広く公表する。

① ＶＥ情報交流部会	② ＶＥ推進部会	③ マーケティング部会	④ Ｒ＆Ｄ部会
⑤ ものつくり部会	⑥ 資材調達部会	⑦ 社会インフラ部会	

⑵ 専門研究会での研究活動

東日本支部及び西日本支部（東海地区・関西地区）に専門研究会を設置してＶＥに関する実務的な研究を進め、その成果を発表会又はレポート（ＶＥ資料）等で広く公表する。

東日本支部	① ＶＥ初心者のためのスキルアップ研究会
西日本支部（東海地区）	① 中部建設ＶＥ研究会
西日本支部（関西地区）	① 経営革新を生み出す活き活きＶＥ研究会 ② ＶＥツール研究会 ③ サービス領域でのＶＥ適用方法研究会 ④ 原価企画の問題解決研究会 ⑤ テアダウン研究会

5. 表　彰

ここでは、経常的な活動展開への動機づけや規模の大小を問わず企業等におけるＶＥ活動の促進・活性化を目的に、研究開発、普及促進及び本会諸活動で顕著な成果を挙げた人又はグループを対象とした「協会顕彰」、ＶＥ技術水準の向上とＶＥ活動のさらなる活性化等を目的に、バリュー・エンジニアや公的機関、学生等を対象とした「ＶＥ実践論文」の審査及び表彰を行う。

1）協会顕彰の実施

ＶＥの研究開発や普及促進等で功績を挙げた個人や団体等に、顕彰規程にもとづいて次の各賞を「第56回ＶＥ全国大会」で授与する。

① 研究開発功績賞
② 普及功労賞
③ 協会賞（ＶＥ経営者賞、ＶＥ功労賞、ＶＥ国際功労賞、ＶＥ特別功績賞、ＶＥ学術功績賞、普及功労特別賞、ＶＥ活動優秀賞）

2）ＶＥ実践論文の審査・表彰

⑴ ＶＥ実践論文を「第56回ＶＥ全国大会」の開催にあたって募集。応募のあった論文の審査を「審査・認定委員会」内に設置されている「論文審査部会」で行い、その結果入選となったものの表彰を同大会で行う。

⑵ ＶＥ実践論文は上記以外でも随時提出を受け付け、査読の結果採択となった論文は原則としてＶＥ誌に掲載する。

⑶ ＶＥ実践論文でなく、学術的な研究論文の応募があった場合は、一般社団法人日本システムデザイン学会と連携し、査読・発表の機会を上記と別に設けることとする。

6. 情報資料

1）研究成果の資料化

各支部での実務的研究の成果をＶＥ資料として纏め、公表する。

2）ＶＥテキスト・教材・関連資料等の発行・販売

⑴「第56回ＶＥ全国大会」ＶＥ実践論文集・資料集、ＶＥ普及のための図書等を発行する。

⑵ ワークシート、アイデア発想ラベル・機能定義カード、ＶＥＬバッジなどＶＥ実施や推進のためのアイテムを販売する。

3）ＶＥテキスト・関連資料等の翻訳・発行

⑴ 講座テキストやＶＥ資料等を英語、中国語等に翻訳し、発行する。

⑵ 特に中国語版については、上海ＶＥ協会の協力を得て、ＶＥ関連の資料図書も発行する。また、本会が発行しているＶＥ資料、研究資料等の翻訳も進める。

4）ＶＥ関連書籍・資料・教材等の販売

ＶＥの学習及び研究、普及促進に資するため、ＶＥ関連専門図書を仕入れて販売する。

5）ＶＥ研究論文等のネット販売

協会Web Site内に開設したＶＥ論文検索・購入サイト「ＶＥ論文navi」で電子化した過去のＶＥ研究論文及びＶＥ実践論文を販売する。

7. VE活用支援

1）日本国内における出前講座・オンライン講座の実施及び指導講師の派遣

企業･団体等からの要請に応じて出前講座･オンライン講座を実施､又は指導講師を派遣し、ＶＥの個別指導、コンサルティング等を行う。

2）海外でのＶＥ教育支援

⑴ 上海ＶＥ協会が行う中国でのＶＥ研修、資格認定等を支援するとともに、中国及び海外でのＶＥ研修、プロジェクト指導等の担い手となる人材の募集や養成に注力する。

⑵ 上海ＶＥ協会の会員企業や個人会員が本会主催のオンラインイベント（大会・講演会・研究会等）に参加し、ＶＥへの理解を深める場を提供するための環境を整備する。

⑶ 海外向けにＶＥ研修プログラム（ＶＥ基礎講座・サービス系ソフトＶＥ講座）を標準コースとして開発するとともに、海外でのＶＥ資格取得を促進させる。

⑷ 企業・団体等からの要請に応じて出前講座・オンライン講座を実施、又は指導講師を派遣し、ＶＥの個別指導、コンサルティング等を行う。

3）ＶＥワークショップ・セミナー（48時間以上）の認定

企業や団体が主催するＶＥワークショップ・セミナー（48時間以上）のうち申請のあったものについて審査・認定を行い、その修了者がＶＥＳ認定試験の受験要件であるＶＥ学習経歴を満たせるようにする。

8. 会員相互研鑽

1）見学会・講演会等の開催

各支部においてオンラインでの見学会・講演会等を活動計画にもとづいて開催し、ＶＥに関する情報交流を行う。

9. 広報活動

1）メールマガジンによる情報発信

メールマガジン「ＶＥ情報メール」を毎月1回発行し、ＶＥや本会に関する最新情報を積極的に発信する。また、主催する大会・セミナー等の案内や募集などＰＲ活動にも積極的に利用する。

2）協会Web Site等による情報発信

協会Web Siteをインターネット上で運営する。情報の定期更新を行い、ＶＥや本会に関する最新情報発信のツールとして有効に活用する。また、各種ＳＮＳと連携させることで、発信力の強化を図る。

3）インフラメンテナンス国民会議への参加

国や自治体、企業、研究機関、ＮＰＯ等で構成されるインフラメンテナンス国民会議に参加し、情報を収集するとともにＶＥ関連情報の発信を図る。

4）他団体との連携による広報

連携に賛同いただける団体と相互にイベントを後援し合い、またＰＲに協力、参加費の割引を行う等して、ＶＥの普及促進を図る。

5）アジア圏を中心とした海外向け情報発信の拡充

⑴ オンライン化により海外でのＶＥ教育、実践指導、資格認定の可能性も広がったことから、協会 Web Site や情報・資料、動画セミナー等のコンテンツを英訳・中国語訳し、積極的に発信する。

⑵ 米国ＶＥ協会のアジア地域担当マネジャーと協力して、アジア諸国のＶＥ関係者との連携を強化し、ＶＥ普及促進の図るための協力体制を築く。

10. 会　議

1）定時総会の開催

第13期 定時総会	6月13日

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

2）理事会の開催

第42回	第43回	第44回
5月16日	8月31日	3月12日

※ 上記のほか、必要な場合には臨時に開催する。

※ 新型コロナウイルスの感染状況により、“決議の省略”という方法（書面表決）に切り替えて議案の決議を行う。

3）「本部企画委員会」の開催

各支部の支部長、各委員会の委員長、事務局長で構成し、年度計画の調整や事業推進における意思疎通を図るための「本部企画委員会」を年度内に1回開催する。

※ 新型コロナウイルスの感染状況により、開催方法は“オンライン”に切り替える。

以上